

陸前高田市 震災追悼施設開所式

東日本大震災で大きな被害を受けた陸前高田市では震災の犠牲者を追悼する施設が完成しました。陸前高田市ではこれまで、被災した市役所の旧庁舎に献花台があり震災の犠牲者を追悼する場所となっていました。旧庁舎はまもなく解体されるため市では高田松原の近くに新たな追悼の場を作りました。18日は開所式が行なわれ、自らも震災で妻を亡くした陸前高田市の戸羽太市長ら30人余りが出席。白い菊の花を供えて犠牲者の冥福を祈りました。(1/18 ニュースエコーより)



根本復興大臣が県と意見交換

被災地視察のため、就任後初めて岩手入りした根本復興大臣は21日、達増知事や市町村長と意見交換を行いました。根本復興大臣は、盛岡市の岩手復興局を訪れ職員およそ30人を前に訓示を行い「現場主義を徹底し現地の声を吸い上げて欲しい」と指示しました。そしてこの後、達増知事や沿岸自治体の市町村長との意見交換に臨み、冒頭のあいさつで「閣僚全員が復興大臣の意識で県、市町村としっかりスクラムを組んでやっていく体制を作る」と話し、安倍政権として復興を最優先に取り組む考えを伝えました。(1/21 ニュースエコーより)



宮古発

重茂漁協に情報配信新システム

宮古市の重茂漁協では、漁に関する様々な情報を配信するこれまでのシステムに代わり、光ファイバー網を使った新しいシステムが導入



されることになりました。重茂漁協ではその日の漁ができるかどうかや天候、水温など漁に関する様々な情報を、これまで電話回線網を使った屋内外の放送やFAXでお知らせしてきました。「おもえ漁協ネット」と名づけられた新しいシステムは、NTT東日本の光ファイバー網を使い放送に加えて、FAXに代わるタブレット端末を使って情報を受信します。新しいシステムは、今月中に全組合員のおよそ400世帯に設置、3月から本格運用させる予定です。(1/22 ニュースエコーより)

宮古発

高校生が模型使い津波語る

宮古工業高校の生徒たちが、新たに完成した手づくりの模型を使って、市内の小学生に津波の仕組みを教えました。この「津波の出前授業」は宮古市立鉾ヶ崎小学校の6年生を対象に行われ、宮古工業



高校機械科の2年生と3年生、合わせて8人が先生を務めました。そして1年がかりで仕上げたという、津波の仕組みが

分かる模型を使っての授業を行いました。たたみ2畳分の模型はベニヤ板や紙粘土を使い、鉾ヶ崎地区を含む宮古の市街地を、2500分の1の大きさで細かく再現しています。津波発生の実演を行った高校生は、「頼りになるのは地元の人だけなので、日ごろから訓練を行いましょ」と呼びかけました。(1/22 ニュースエコーより)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122